

2024年度水環境文化賞を授賞して

琴引浜ネイチャークラブハウス 安 松 貞 夫

1. 活動の背景

1986年に地学部は琴引浜で活動を始め、87年には地元「琴引浜の鳴り砂を守る会」が成立しました。ともに浜の保全活動、調査や漂着物展も始めました。1997年、浜にロシアタンカーから重油が大量に漂着しました。ボランティア1万3000人の協力で3ヵ月後には重油もプラスチックごみもない、きれいな浜に戻りました。海の保全の関心も高まり「漂着物学会」も誕生しました。今は京都府や企業との協同活動も進んでいます（写真1）。

2. 活動内容

当初、部員は鳴き砂に関心が集まりましたが、その浜にプラスチックごみが漂着しているのに気づきました。浜にプラスチック製の粒子、レジンペレットが散在するのに気づきましたが、こうしたプラスチックごみがどこから流れ着くのかわからない。素性がわかりそうな、使い捨てプラスチックライター、次いで医療廃棄物を精査しました。危険な医療廃棄物があるのに理解できず当時の厚生大臣に要望書を出すこともしました。タバコの吸い殻が捨てられ鳴き砂の浜が傷まぬよう網野町に禁煙の浜条例制定を働きかけました。地元の方、小中高校の方々とともに「ひろったゴミが入場券」をキーワードの「はだしのコンサート」を続けています（写真2、3）。この

取り組みがあり地元「琴引浜鳴き砂文化館」を設けていただいた。白砂青松の浜がこうした努力もあり鳴き砂の浜は残されていることを理解いただいています。琴引浜に対馬海流が熱帯からココヤシを始め多様なものが流れ着いていることも知っていただけるようになりました。この浜を維持すべく文化庁が天然記念物・名勝に指定いただきました。

3. 今後の展望

花の琴引浜とも言える自然度の高い浜です。生物多様性保全活動を理解していただけるように願います。また山陰海岸ジオパークを現地で体感いただけるよう取り組みたい。琴引浜の鳴き砂文化館展示も20年を経過しているのでわかりやすいものにリニューアルを進めています。若い世代の参加者、指導者が育つ取り組みを推進したい（写真4）。地元の方々の理解が深まり浜が大切にされるようにと思います。

このような賞をいただき、励まいただきありがとうございます。このような賞に恥じぬよう頑張ります。受賞には日本水環境学会関西支部の皆様にご支援ご指導をいただきました。感謝この上もございません。

URL : <http://www.kotohikihama.sakura.ne.jp/>
琴引浜通信で 検索



写真1 琴引浜での漂着物調査（京都府や企業との協同）



写真2 マイクロプラスチック集計



写真3 ステージで集計報告



写真4 リーダー養成講座 嬉しい、困りもの調べ